

屋外活動が増える季節 マダニ媒介感染症に気をつけましょう

房総地域は野生動物が多く生息するため、マダニの多い地域です。マダニに吸血されると日本紅斑熱やSFTS(重症熱性血小板減少症候群)に感染することがあります。山林や畑などに行く際は、マダニ対策を取りましょう。

刺されないための予防策

屋外活動後は、入浴やシャワーを浴びてダニがついていないか確認を

肌の露出を少なく
帽子・長袖・手袋・首にタオルを巻くなど

虫よけスプレー
(ディート・イカリジン)を使用

服のすき間をなくす
裾を靴下に入れる・長靴を履くなど



日本紅斑熱	発熱・発疹・倦怠感など。早期治療が重要。	千葉県南部では毎年日本紅斑熱患者が確認され、2026年5月に死亡例が報告されました。
SFTS (重症熱性血小板減少症候群)	発熱・倦怠感・嘔吐など。重症化することがある。	2026年4月に県内で初めて、猫のSFTSの症例が確認されました。

刺されたときは

- 無理に引き抜かない
口器が残ってしまうため
- できるだけ早く医療機関へ
刺された日時・場所を覚えておく
と診断に役立ちます。

受診のタイミング

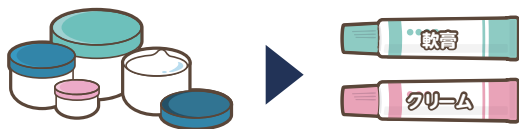
- ダニに刺された後、発熱・強い倦怠感・皮疹などに気づいたら
早めに受診

ペット(犬・猫)にも
ダニ対策を

おくすり容器の供給不足にともない ぬり薬のお渡し方法が変わる場合があります

現在、中東情勢などの影響により、ぬり薬を入れるプラスチック容器の供給量が全国的に不足しています。そのため、これまで一つの容器に混ぜてお渡ししていましたが、

今後は、別々にお渡しする可能性があります。
お渡し方法が変わる場合は、薬剤師がご説明いたします。



◆使用済みの容器について

使用済みの容器は、衛生面・安全面の理由から、病院で再利用することはできません。容器をお持ちいただいても、今の時点では原則としてお預かりできません。

◆今後に向けたお願い

今後の状況に備え、ご家庭で使用済みの容器がある場合は、捨てずによく洗って乾かしたうえで、しばらく保管してください。

おくすりを安定してお渡しするため、ご理解とご協力をお願いいたします。

Kタワーインフォメーションの ユニフォームが新しくなりました

インフォメーションのスタッフユニフォームが、このたび新しくなりました。これまでのユニフォームが廃版となったことを受け、夏場の快適性や動きやすさを考慮し、一新しました。

新ユニフォームは、シンプルで落ち着いたデザインながら、首元のスカーフリボンがやわらかな印象を添えています。

カスタマーサービス部の寺下智美部長代理は、「新しいユニフォームは、実際に着用すると軽くて動きやすく、スタッフからも好評です。来院時にお困りのことがあれば、ユニフォームを着たスタッフにお気軽にお声がけください」と話しています。



松本流

健康になるお掃除術



掃除でもっと健康になれるってご存じでしたか!?



環境整備課 松本 忠男

最終話

松本忠男が実践する「福育」 ～子どもたちの健康と笑顔を守る環境教育～

私は病院清掃の現場で40年近く、「清潔とは何か」を追求してきました。その経験から得た知見を次世代に還元するため、私が発案し、エステ株式会社との協力をいただき、推進してきたのが「福育」活動です。これは単なる掃除の指導ではなく、「拭く」ことを通じて健康を守り、人を思いやる心を育む教育プログラムです。

「拭く」が「福」を招く掃除モデル

「福育」という言葉には、「拭く」という動作と、それがもたらす「福(しあわせ)」の二つの意味が込められています。拭き方は清掃の基本でありながら、ひと拭き間違えば菌や汚れを塗り広げる原因になります。福育では、科学的根拠に基づいた正しい拭き方を学ぶことで、目に見えない汚れから自分や大切な人の健康を守る力を養います。

同時に、これはキレイの先にある大切な人の安心した笑顔を見据えた次世代の清掃モデルでもあります。心を込めて拭く行為が、いつもの「拭く」を「福」に変えるのです。



小学校での実践 ～横浜市立荇子田小学校の事例～

2021年12月、横浜市立荇子田小学校の4年生を対象に福育授業を実施しました。授業ではまず、ブラックライトを使った汚れの「見える化」から始めました。子どもたちは、一見きれいに見えるドアノブやスイッチに多くの汚れが潜んでいることに驚きの声を上げました。この「気づき」が学びの第一歩です。

次に、正しい拭き方の実践として「一方向拭き」を指導しました。ぐるぐる拭きやゴシゴシ拭きでは汚れを広げるだけですが、一方向に拭き取ることで効率的に清掃できます。授業後、子どもたちは「家や学校でも一方向拭きをして、みんなが気持ち良くなるようにしたい」と語り、自主的な衛生対策意識の向上がみられました。

さらに子どもたちは他学年の子どもたちにも教えたり、教室の枠を超えて「福育」の輪を広げる活動を自主的に始めました。ある生徒は「正しい拭き方で世界中を守りたい」と発表し、技術の習得だけでなく、他者を思いやる心と社会貢献の志が育まれたことを実感しました。

保育園での実践 ～「福育あそび」の取り組み～

小さな子どもたちが集まる保育園では、「遊び」の要素を取り入れた「福育あそび」が効果的です。例えば、「ばいきんさんはどこにいるかな?」と問いかけながら、掃除を「やらされる作業」ではなく、「自分たちの空間をきれいにする楽しい活動」として認識させます。

この取り組みにより、子どもたちが進んでお片付けをするようになり、共有の玩具をきれいに使おうとする意識が生まれるなどの成果も見られました。幼少期から環境を清潔に保つ習慣と意識を植え付けることは、その子の一生の健康意識を形作る礎となります。

福育が目指すもの ～笑顔の連鎖で社会を変える～

福育の活動は、子どもたちの行動変容だけに留まりません。子どもから家庭へ、家庭から地域へと、その輪は広がっていきます。子どもが学校で学んだ正しい拭き方を家で実践し、家族に教える。

作業としてのお掃除を繰り返すのではなく、なぜ掃除が必要なのかを理解し、効果的かつ持続可能な方法を実践できる人を育てることが、社会全体の環境整備の意識を高めることにつながると信じています。

福育は、「子どもたちの健康と笑顔を守りたい」という願いから発案した活動です。小学校では「気づき」と「技術」を、保育園では「遊び」と「習慣化」を鍵に、次世代を担う子どもたちに「正しく拭く文化」を伝えていきます。掃除を通じて環境を整えることは、自分や他者の生命と健康を尊重する心を育みます。それはまさに、目に見える場所をきれいにするだけでなく、心の中も磨く行為なのです。



医療エッセイのバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

<https://medical.kameda.com/general/about/magazine/index.html>



LINE公式アカウント「亀田INFO」

亀田クリニック・亀田総合病院からの情報をお届けします



QRコードを読み取って友だち追加を選んでください

友だち募集中